

2020 年度 入学試験問題

国 語

(帰国生入試)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入し、QRコードシールをはりなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

東京都市大学附属中学校

【注意】国語の問題では、字数制限のあるものは、特別な指示がない限り句読点等も一字に数えます。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

まず人がいて、自分があつて、そして言葉がある。言葉と人の係わりを言うとき、そうした順序で考えられるのが、まず普通です。ただ、言葉と人の関係について考えるなら、その順序を逆にして考えるほうがいい、とわたしは思っています。まず言葉があつて、自分があつて、そして人がいるというふうに。

この世にあつて、人にとってなくてはならないと思えるもの、毎日の生活をささえてきたもののほとんどすべてというのは、人がつくりだしてきたものです。人はさまざまなるものを、つくろうとしてつくってきたし、けつしてつくれないと思われるようなものすら、しばしばつくりだします。けれども、人にとって絶対になくはならないものというのは、必ずしも人のつくつたものでなく、言葉もそうです。

自分が生まれる前からずつとあつて、言葉は、わたしたち自身より古くて長い時間をもっています。ですから、わたしたちは言葉のなかに生まれてくる。そして、自分たちがそのなかに生まれてきたもつとも古い言葉を覚える。成長するとは、言葉を覚えるということです。つくるものでなく、あつらえるものでない。覚えるものが言葉です。

毎日の経験を通して、人は言葉を覚えます。覚えるのは、目の前にある言葉です。自分の毎日をつつんでいる言葉です。自分がそのなかに生まれてきた言葉というものを、あるいは言葉の体系というものを、自分から覚えることによつて、人は大人になつてゆく。あるいは、人間になつてゆく。そういうものが、言葉です。

にもかかわらず、覚えて終わりではなく、覚えた言葉を自分のものにしてゆくということができないと、自分の言葉にならない本質を、言葉はそなえています。

言葉を覚えるというのは、この世で自分は一人ではないと知るといふことです。言葉というのはつながりだからです。

言葉をつかうというのは、他者とのつながりをみずからすすんで認めるといふことであり、言葉を自分のものにしてゆくというのは、言葉のつくりだす他者とのつながりのなかに、自分の位置を確かめてゆくといふことです。

人は何でできているか。人は言葉でできている、そういう存在なのだと思うのです。言葉は、人の道具ではなく、人の ^aソザイなのだといふことです。

たとえばTVのニュースで、中東で問題が生じて、サウジアラビアの砂漠の道が映っているのを見ます。映っている砂漠の風景は、まったく何も無い風景です。日本にはない風景のなかに、日本とそっくりおなじハイウェイが一本、まっすぐに通っています。道路標識が映ります。アラビア語で書かれた道路標識です。

サウジアラビアでなくても、韓国でも、オーストラリアでも、ノルウェーでも、メキシコでも、日本の他のどこであっても、ハイウェイの道路標識はどこも緑のボードに、白い文字で書かれています、どこかという街の、どういう出口にでてゆくか、どういう分岐点にでるか、道路標識は記号も、キカクも、色も、まずどこでもだいたいおなじです。ですから、すぐ道路標識はわかる。ただ一つ、言葉だけが全然違います。

車を動かすのには、べつに言葉は要らないのです。世界のどこでも、車の動かし方はおなじです。道のつくられ方も、ハイウェイなどはそう変わりません。道路標識の記号もおなじです。しかし、緑のボードに書かれている白い文字の言葉は、その言葉に通じていないものには、意味をもたらずことはありません。

勉強しないと覚えられないのが、異郷の言葉です。勉強しないで覚えられるのは、自分が生まれた土地の言葉だけです。日本の場合、勉強して覚える外国語という成績を重んじる教育の枠組みのなかで、むずかしい言葉が知識とみなされて、正しい言葉ばかりが求められますが、もともとは赤ちゃんの喋るのも異国の人のカタコトもまた言葉であり、不完全な言葉もまた、わたしたちにとっての大切な言葉のはずです。

今日のように、国境という仕切りが低くなって、人びとをつなぐ基準が世界的に共通になってくると、問われるのは、何がグローバル・スタンダードかということですが、

言葉はどうか。言葉というのは、どこまでも地域性に根ざすだけに、どうあってもグローバル・スタンダードにならないでしょう。今、^①世界の通用語とされる英語にしても、グローバル・スタンダードというのとは違うように思います。

英語にしても、おそろしく地域性がつよく、専門家であればどこの英語かほとんどわかると言います。シドニーはシドニー風英語、テキサスはテキサス風英語、ベルファストはベルファスト風英語というように。それでも英語が世界の通用語の位置をしめるようになったのは、英語くらい、言葉の完全さをでなく、言葉の不完全さを受け容れてきた言葉はすくないという歴史があるからだろうと思えます。

国境を越える言葉は、完全な言葉でなく、むしろ不完全な言葉なのです。たとえば、国境を越えて働きにゆく人たちのコミュニケーションをささえるのが、カタコト言葉と、表情と、身ぶりであるように、です。

その意味では、不完全さこそ言葉の本質と言ってよく、^②言葉を言葉たらしめるものは、違いを違いとして受けとめられるだけの器量です。

言葉には、おおざっぱに言って、二つあります。

一つは、他者を確かめる言葉です。挨拶の言葉。手紙の言葉。電話の言葉がいちばんいい例です。電話はだれかにかけるもの、そしてだれかからかかってくるものです。つまり、他人なしには存在しない道具です。それに、メディアの言葉。情報の言葉。わたしたちの日常のおおきの言葉は、そこに他者がいる、他者が感じられる、そういう言葉です。あるいは、他者を確かめるた

めの方法としての言葉です。

言葉には、もう一つの名詞があります。自分を確かめる言葉です。ここに自分がいると感じられる言葉、自分を確かめるための、あるいはそのための方法としての言葉です。本という言葉はいつもそうでしたし、今でもそうですが、歌や映画、マンガやドラマも、ただおもしろいというだけでなく、共感したり反発したり、ここに自分とおなじ人間がいる、そこに自分の世界があると感じられる、そうした「私」の言葉でできています。

他人を確かめる言葉と、自分を確かめる言葉と、わたしたちがもつ言葉には二つの方向、二つの働きがあります。技術革新の大波がおしよせてきてめざましくすすんだのは他人を確かめる言葉の技術ですが、自分を確かめる言葉の技術のほうはどうかと言えば、本なら本を開いて読む。歌なら、歌に耳かたむける。映画なら映画館で、あるいは部屋でビデオを見る。マンガならページを追う。今も、そんなふうにな個人的です。

インターネットのような新しい空間がひろがって、他人を確かめる技術がとんでもなくすすんでも、自分を確かめる言葉のあり方が、だからといって変わってゆかないのは、自分を確かめる方法は心の働きだからです。万事にソリッドさ、堅固さをつくりだしてきた技術革新のあり方は違って、心というのはかたちのない見えないものにすぎません。

心、と簡単に言うことはできても、その心は、人の身体のどこにあるのか。心臓がどこにあるかはわかる。指がどこにあるか、眼球がどこにあるかもわかっています。しかし、心が身体のどこにあるのか。技術が働きかけることができるのは、そこにあるとわかっているもので、それを変えたりつくったりすることができる。けれども、心はどこにもないものだから、言葉でしか言えないのです。

そのため技術革新の華やかな時代に疎かにされがちなのは、心の働きです。心の働きとか、あるいは勘どころとか魂込めといった訳のわからないものは、もはや時代遅れに見えます。しかし流行は、すべてではありません。わたしたちのあいだには言葉でしか言えないもの、言葉でしか読みとれないものが、どうしたってあるからです。

そもそも社会が、現実が、世界がそうです。社会や現実や世界は地図のうえにはないし、これがそうだと指させない。にもかかわらず、わたしたちは社会というものがあると熟知しているし、現実というものをひしひしと実感しているし、世界というものがあるということも知りぬいています。

どうやって？ 言葉によって、です。言葉からしか ^d カンジユできないものがある。 ^B そのことをわたしたちに教えてくれるのが、言葉です。

(長田弘『読書からはじまる』より)

問1 — 線 a、d のカタカナを漢字で書きなさい。

問2 — 線①「世界の通用語とされる英語にしても」とありますが、筆者は英語が広く世界で用いられている理由をどう述べていますか。「から。」に続くように文中から十五字でぬき出しなさい。

問3 — 線②「言葉を言葉たらしめるものは、違いを違いとして受けとめられるだけの器量です」とありますが、このことからコミュニケーションはどうあるべきだと言えますか。その説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 完全な言葉が使えなくても、身ぶりや表情などもふくめてコミュニケーションをはかることが大切である。

2 言葉には地域性があるので、不完全な言葉こそ、コミュニケーションのなかで用いていくべきである。

3 相手が誤った表現を用いたとしても、和やかなコミュニケーションをはかるためにはそれを指摘してはいけない。

4 他国の人との間では正確な意思の伝達が不可能であるので、常にその点を意識して話をするのが大切である。

問4 — 線③「ひしひしと実感している」とありますが、どういう意味ですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 どこかではくせんと感じている

2 身近なこととして理解している

3 じゅうぶんに感じとっている

4 危険な問題と受けとっている

(問題は次のページに続く)

2 次の文章は河合隼雄の小説『泣き虫ハアちゃん』の一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

それまでは、兄弟と遊ぶのが一番面白いと思っていた①。ハアちゃんも、三年生になると、同級生の男の子たちと一緒に遊ぶのが急に面白く、楽しくなってきた。学校に行くのも、仲間に会えると思うと嬉しい。

休憩時間には運動場に出て遊ぶ。勉強が終って運動場に行こうとして、ハアちゃんは、忠組の教室の校舎と塀との間に、一間ほど（二メートル弱）の空間があり、そこはいつもは閉じられているのだが、その扉が開いているのに気づいて覗いてみた。すると、そこは物置で古い瓦が積んである。

「入ってみやへんか」

と後ろから声をかけられ、ハアちゃんはドキッとしたが、青山の周ちやんだ。こわごわ入って眺めているうちに、ハアちゃんはよいことを思いついた。

「周ちゃん、ここ僕らの秘密基地にしよう」

ハアちゃんの秘密基地構想はすぐ仲間に伝わり、昼休みには運動場に行くと思わせかけ、堀田君、藤川君ら数人が集ってきた。積んである瓦をうまく移動すると、坐るところができて、あちこちから調達してきた、箒の柄や穴のあいたバケツなどを配置すると、司令官の居る場所、参謀の坐るところなどができてくる。こんなときに、ハアちゃんはまず大将にはならず、参謀役のようなことになる。司令官は周ちゃんである。

「敵がいないとオモロないさかい、吉川君を敵にしよう」


というハアちゃんの提案に一同賛成。

「よし、誰か二人、敵を探してこい！」

と早速、周ちゃんは命令し、堀田君、藤川君は基地から飛び出してゆこうとする。

「斥候二名、敵を偵察、の方がカッコええんとちやうか」

ハアちゃんの提案に感心して周ちゃんは命令を変更する。こんなときにハアちゃんの読書好きが役に立ち、けんかに強くないのに仲間から一目おかれている。

秘密基地ごっこは面白くてたまらない。授業時間に、「本日、基地に十二時に集合」などという紙がまわってくる。そして、最後のところに、「」という記号が書かれている。これは藤川君が考案したものだが、「日が三つでヒミツ」というわけだ。藤川君は大得意で、何かというこの記号を書いた紙を送ってくる。

吉川のためには何となく自分が何かの標的になっていると感じるのか、こちらを白い目で見ているようなところがある。たあちゃんも一方の人気者で、とりまき連中とよく遊んではいるのだが。

ハアちゃんも斥候役になるときがあり、敵の偵察に出かけた。ところが、この日は吉川君がな

かなか見当らない。ひよっとして柵の外にでもと思って、平素はあまり近よらない運動場の東側の低い鉄柵に沿って歩いてみた。小学校は篠山城の城内にあり、東側は外堀で柵をこえて一メートルほどで、崖のようになって下の方に堀がある。

ハアちゃんが歩いている先の方に、手マリがはずんできて柵をこえ下に落ちていった。堀にはまったかなと思っていると、それを追ってきた、きいちゃんが柵に手をかけてヒラリと飛びこえ、しかも、崖のところですつと姿を消してしまった。これには、ハアちゃんも肝を潰して見ていると、しばらくして、きいちゃんがマリを片手に顔を出し、ふと目が合うと、ハアちゃんを手招きした。そこで思い切つて柵をこえ、きいちゃんのところに行つてみて驚いた。崖だと思つていたところは、うまくすると下に降りてゆけるのだ。

きいちゃんに連れられ下まで降りてみて、ハアちゃんは思わず感嘆の声をあげた。崖と思つていたところが大きくえぐられていて、洞窟のようになつているのだ。運動場の下にこんなところがあるとは思ひもよらないことだ。片方は堀なので洞窟とは言えないが、木の根が出ていたりして何とも恐ろしげで、

「わあ、これこそほんまの秘密基地や」

とハアちゃんは大声をあげた。

「秘密基地で何？」ときいちゃんが知りたがるのを必死でごまかして、ハアちゃんはきいちゃん、と、他の子たちに見られぬように注意して柵をこえ、運動場にかえつてきた。

次の授業はハアちゃんはほとんど聞いていなかった。「大秘密基地発見！」のニュースを、高先生に気づかれぬように仲間の全員に伝えねばならない。この基地に比べると、藤川君の御自慢の秘密記号など、何だか「幼稚クサイ」とハアちゃんは思い、もう書かないことにした。

人目につかぬように注意しながら、全員が新秘密基地に集合した。誰もうまく言葉が見つからぬほどの感激だった。皆で相談して、家から少しづつ物を持ってきたりして基地の整備をした。司令官のいる場所。秘密の隠し場所。そこにはピストルや鉄砲などを隠した。堀田君はどこか手に入れたのか、小さい鳥居を持ってきて、「ここに神さんを祀つて、僕らの誰も堀にはまらんように、ほんで、誰にも見つからんように祈るんや」と言う。

だんだん気が強くなつてきて誰にも負けないような気持になり、たあちゃんなど相手にせず、六年生の腕白者を敵として偵察したりした。敵として、といっても別にほんとうに戦うわけではないので、心配はいらないわけであるが。

ハアちゃんは学校に行くのが楽しみになつた。城山家の子どもたちのなかで、ハアちゃんは朝起きるのも動作も遅く、それに味噌汁も嫌い！というわけで登校は遅れ勝ちだったが、もうそんなことはない。さつと起きてはやばやと登校する。

城山家では、夕食のとき、まずお父さんだけがお母さんを相手にして、お酒（ビールするときもある）を飲まれ、それが終わったところで、全員が呼ばれて食事になる。もつとも、弟のいいちゃんだけは小さいので、お父さんがお酒を飲まれるときに膝のなかに抱いて、何か食べさせてもらつ

たりする。

あるとき、もう御飯かなと思つて、ハアちゃんが食堂の方に行くと、お父さんはまだお酒の最中で、お母さんと話をしておられるのが聞こえてきた。お母さんが、

「この頃、隼雄は元気になったようですね。朝は早く起きますし、あまり、ぐずぐずしないし」と言われるのに、お父さんが、

「うん、大分敏捷になったなあ。子どもは小学三年生くらいのところに変わり目があるようなあ」「そう言えば、正雄も……」

ハアちゃんは立ち聞きはいけなないと早々に退出したが、何だが尻こそばゆいような気持だった。さすがのお父さん、お母さんも、秘密基地のことまでは御存知ない。

堀田君が見さんの組立てラヂオの壊れた部品をもらったとかで、耳に当てるレシーバーを持ってきた。半洞窟の上から垂れてきている細い根にくつつけて、耳に当てると何ともカッコがいい。

「これで斥候との連絡がつけられる」と喜んでいると、斥候に出た藤川君がこわばった顔をして帰ってきた。

「たあちゃんに見られたかもわからへん」と言うのだ。六年生の腕白者を敵として張り切つていて、たあちゃんのことを忘れていたら、彼は何か怪しいと思つて見張つていたのか、藤川君が柵を飛びこえて下に降りようとするのを見ていたらしい。ともかく、これからは、たあちゃんを敵として、もっとマークしようということになった。

ところがまったく思いがけないことが起こった。朝の全校生の朝礼のとき、校長先生が、「昨日の昼、校外に用事があり、帰りに堀端の東の道を歩いていて、ふと小学校の運動場の方を見ると……」と話し出された。運動場の下の堀端に四年生くらいの子が数人遊んでいるのが見えて驚いてしまった。あのような危険なことは決してしないように、と厳しく注意をされた。

ハアちゃんたちは^③びつくり仰天。早速集つて、校長先生は四年生と思つておられるようだし、誰も知らないから僕らも知らぬ顔をして、しばらく秘密基地から離れよう、ということになった。その日の授業の終りの会に、高先生は怖い顔をして教室に入ってくるなり、

「今日校長先生が朝礼で言われた危険なことをしている者が、この学級にいと先生は思う」と強い調子で言われた。そのとき、先生とたあちゃん目がチカッと合つたのをハアちゃんは見逃さなかつた。「たあちゃんが言いやがったな」と思うや否や、ハアちゃんは立ちあがっていた。

「それは僕です」とハアちゃんが言う周囲がすぐに立ち、仲間がつきつきと立った。「よし、皆俺について来い。俺も一緒に校長先生にあやまりに行く」

^④高先生が「俺」などと言われるのは、はじめてだ。「他の者は帰つていいぞ」と先生は言われ、ハアちゃんたちは校長室に行くことになった。職員室に行くのも大変と思つているのに、子どもたちは校長室など行くのははじめてだし、カンカンに緊張した。それは高先生も同様で、校長室に入ったときは顔は青くなり、

「こ、こ、校長先生」

と言ったものの言葉が続かない。こんなときはハアちゃんはやたらに腹がすわってくる。

「三年忠組の城山です。あの場所を秘密基地にして遊ぼうと言ったのは僕です」としつかりとした声で言った。

「あつ、あの鉄屑集めの城山君か」

と校長先生は覚えておられた。しばらく沈黙の後で、

⑤ 「秘密基地……か」

と校長先生が言われ、その目は細くなって、遠くの山でも見ているような感じになった。

「校長先生も君たちの年の頃、秘密基地がものすごく好きになってな……」

「とうとう裏山の木の上に、竹の棒を縄でくくったりして小屋をつくり、そこを自分の秘密基地にしたんだよ。眺めはいいし、誰にも秘密だし……」

ハアちゃんたちは校長先生の話につられて身を乗り出して聴いた。

「ところが、うっかり床を踏みはずし、そこから落ちて背中をしたたか打って、うーんとうなって動けなくなった」

「ほんで、校長先生大丈夫やったんですか」と周ちゃんが思わず合の手をいれる。

「いや、もうあかんかと思うくらいやったけど、折りよく近所の人を通りかかり助けられたんだよ」

ここまで言って校長先生は子どもたちの顔を一人ひとり優しい目で見て、

「なっ。秘密基地は面白いけどな、やっぱり危険ということを考えなあかん。実は校長先生は昨日の夕方、あそこへ行ってみたよ。確かにあれは最高の秘密基地や。それでも危なすぎる。堀に落ちて泳げへんだら溺れて死んでしまう。あれはやっぱりやめなさい」

子どもたちは何と言っているのかわからない興奮を感じていた。一同ペコリと頭を下げ、

「わかりました。あの秘密基地はやめます」と心から校長先生に約束した。皆で部屋を出ようとする、校長先生が言われた。

⑥ 「高先生、先生は素晴らしい子どもたちの担任でいいですね」

「ははっ」

と高先生も嬉しそうに答えられたが、さつきまで青かった顔が今度はまっかになっている。

「お前らよかったな。先生はお前らと一緒に校長室の横の廊下に立たされるんちゃうかと思っただよ」

高先生を先頭に教室に帰ると、まったく思いがけないことに、クラスの全員が心配して待っていてくれて、

「城山君ら無事帰ってきた。バンザイ！」

と皆がバンザイをしてくれた。⑦ たあちゃんだけは仏頂面をしていたが、クラスの同級生がこんな気持で待っていてくれたのには、ハアちゃんはぐうぐうと胸があつくなくて涙がこみあげてきた。

ハアちゃんは校長室に行く途中、深く反省していた。秘密基地はよいとしても、自分たち少数の仲間だけが勝手なことをし、そのために高先生にまで迷惑をかけることになった。それで、おそらく、クラスの連中は、ハアちゃんたちが校長先生に怒られるのを、「いい気味だ」くらいに思っているだろうと想像していた。ところがそれはまったく違ったのだ。「こんな僕を皆が大事に思っ

て待っていてくれた」。ハアちゃんの涙はなかなかとまらなかった。

問1 — 線 a 「得意」・ b 「もう」と同じ意味で使われている文として最もふさわしいものを次から一つずつ選び、それぞれ番号で答えなさい。

a 「得意」

- 1 彼の会社はうちの上得意である。
- 2 私がもつとも得意とするのは、英語の文法だ。
- 3 十戦して負け知らず。彼のチームはお得意様だよ。
- 4 試合が終わって得意満面の笑みを浮かべる。

b 「もう」

- 1 またか。もう嫌になっちゃうなあ。
- 2 天気はもうひどいものでしたよ。
- 3 彼はここにはもう来ないと思う。
- 4 あなたにも、もう届いても良いだろう。

問2 — 線①「ハアちゃん」とありますが、この登場人物のフルネームを漢字で答えなさい。

問3 — 線②「御自慢」とありますが、「自慢」でなくあえて「御」をつけている理由を次から

一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 藤川君が作った秘密記号を、この時点で小馬鹿こばかにしていることを表すため。
- 2 藤川君のことも秘密記号のことも、共に完全否定していることを表すため。
- 3 秘密記号はともかく、藤川君本人には敬意をはらっていることを表すため。
- 4 藤川君はともかく、秘密記号には特別な感情を持っていることを表すため。

問4 — 線③「びつくり仰天」とありますが、この文章には同じ意味の慣用表現が出てきます。ここより前の部分から探して、言い切りの形にして答えなさい。

問5 ——線④「高先生が『俺』などと言われるのは、はじめてだ」とありますが、高先生が「俺」と言った理由として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 校長先生をこらしめてやろうという強い決意を表明するため。
- 2 校長室へ行く事態になって、緊張や気負いを感じてしまったため。
- 3 自分が中心となり校長先生に怒られるという恐怖^{きょうふ}におびえたため。
- 4 校長室へ行く総大将としての自信のなさが表れてしまったため。

問6 ——線⑤「秘密基地……か」とありますが、この言葉を発したときの校長先生の気持ちとして、最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 秘密基地で遊ぶことの良い部分と悪い部分を冷静に分析^{ぶんせき}しようとしている。
- 2 子どもたちがどうして秘密基地などに興味を持ってしまうのかとあきれている。
- 3 どうしたら子どもたちが自分の言うことを聞いてくれるかと必死になって考えている。
- 4 自身の記憶^{きおく}をさかのぼって、秘密基地に興じていた頃の気持ちにひたっている。

問7 ——線⑥「素晴らしい子どもたち」とありますが、校長先生がハアちゃんたちをこのように評する理由としてふさわしくないものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 仲間たちと秘密基地を作ってみんなで遊ぶという子どもらしさ。
- 2 校長室へ隠れもせずにやってきて、罪を認めるいさぎよさ。
- 3 高先生と一緒にすぐ校長室にやってきて話を聞く忠誠心。
- 4 校長先生の呼びかけについて、すぐに理解して応じる素直さ。

問8 ——線⑦「たあちゃんだけは仏頂面をしていた」とありますが、これはなぜですか。解答らん^{らん}に合うように二十字以内で答えなさい。

問9 この文章の地の文（会話文以外の文）において、動作に尊敬語が用いられている登場人物は誰ですか。文中からすべて探し、ぬき出して答えなさい。

3 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

秋の原

さわさわつと 音がして
草の葉が
左右にわかれてゆれた
その瞬間しゆんかんに
光ったものがすぎた
それは ^①あの
銀色の 細長い生きもの
だったように思う

草は 左右にわかれて
生きものの行く道を作り
そしてまたもとの静けさにもどっている
私の胸もさわいだあとの
静けさにもどって
きらいなはずの ^②生きもの のいのちを
愛しいものに思いはじめていた
秋の冷たさの中にいて

(高田敏子『高田敏子詩集』より)

問1 この詩の中で、次の表現技法はどのような使われ方をしていますか。後から一つずつ選び、番号で答えなさい。

(1) 倒置法たうちほう

(2) 直喩ちよくゆ

(3) 擬音語ぎおんご

- 1 この詩の第一連のみに使われている。
- 2 この詩の第二連のみに使われている。
- 3 この詩の第一連と第二連の両方に使われている。
- 4 この詩には使われていない。

問2 ——線①「あの」ということばを、作者のどのような気持ちをこめて使っていますか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 くりかえし表現することをさけたい気持ちから、この詩の中ですでに説明したものであることを示している。

2 直接表現することがはばかられる気持ちから、作者も読者もよく知っているものと遠回しに表現している。

3 その時の心情を理解してほしいという気持ちから、読者にとって身近でないものを指すことばを用いている。

4 ことばで明確に表現することをためらう気持ちから、ことばをつないで言いよどむような言い方をしている。

問3 ——線②「生きもの」を別のことばで表現した部分を、詩の——線②より前の部分から五字以内でぬき出しなさい。

問4 次に示すのは、この詩について生徒が話し合っている場面です。この中で詩の内容からみてふさわしくない発言を二つ選び、番号で答えなさい。

1 生徒A ——はじめは不気味な詩だと思っていたけれど、読んでいくうちに印象が変わっていったね。ぼくもこの生きものに対する愛着を感じるようになった。

2 生徒B ——似たような経験をしたことがあるから、ぼくはこの生きものに対してあまりよいイメージを持っていない。ただ、作者はそうしたイメージをやわらげるためにいろいろな表現を工夫していると思うよ。

3 生徒C ——この生きものに対して草の葉までもが冷たい接し方しているのに、作者だけがあたたかい眼で見ていることに救われる思いがするね。

4 生徒D ——そうした作者の思いは、冒頭から末尾への心情変化を対比的に表現することで、より印象的にぼくらに伝わってくるんだね。

5 生徒E ——特に心情変化を情景と重ねて描くことによって、まるで目に見えるように表現しているところがすばらしい。

6 生徒F ——実際には目でとらえたわけではない生きものを、ありありと読者に印象づけることに成功しているところがこの詩の魅力だね。

4 次の各問いに答えなさい。

問1 1～6の慣用句について、後のⅠ・Ⅱに答えなさい。

- | | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|----------|
| 1 | ① 田買い | 2 | ② 二才 | 3 | ③ 菜に塩 |
| 4 | 鼻④ む | 5 | ⑤ い眼で見 | 6 | ⑥ 羽の矢が立つ |

Ⅰ 1～6について、(1)空らん ① ③ に共通して入る漢字を、(2)空らん ④ ⑥ に共通して入る漢字を、それぞれ一字で答えなさい。

Ⅱ 2・5・6の慣用句と同じ意味になる語として、最もふさわしいものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|
| A | 冷淡 | B | 選出 | C | 未熟 |
|---|----|---|----|---|----|

問2 次の①～③の意味になるように、後の文の()にことばをあてはめる時、最もふさわしいものを後から一つずつ選び、番号で答えなさい。

- ① 仲直り
会話を交わしたことによって二人の関係は()を迎えた。
- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | 日の出 | 2 | 夕暮れ | 3 | 海開き | 4 | 雪解け |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|

② 寛大な心
どんな不満でも聞いて、包み込んでくれる彼の心はまるで()のように広い。

- | | | | | | | | |
|---|---|---|----|---|---|---|---|
| 1 | 海 | 2 | 砂漠 | 3 | 森 | 4 | 川 |
|---|---|---|----|---|---|---|---|

③ 動じない
参加者から無責任な野次を受け続けているが、彼は責任者として、うろたえることもせず、()のように動かないでいる。

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 海 | 2 | 石 | 3 | 虹 | 4 | 山 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

